



事業向け
排出業者

産業廃棄物
処理単価

以外にも目を

委託先選定基準を策定

産業廃棄物処理業経営

塾OB会のあるグループ

がこのほど、排出事業者向けに産業廃棄物の委託先を選定する際の基準をまとめた。産業廃棄物処理業界は長引く不況の影響で処理単価が下がり、価格競争が激化している。そのため委託先選定が価格に偏りがちであることが大きな課題となっていた。委託先選定基準の策定は、そうした現状を打破し、信頼のおける委託先選定を排出事業者に促し、不正処理の抑制につなげ

るのが狙い。

委託先選定基準は、①

理念②情報公開③サービス・技術④地元との関係⑤コンプライアンス⑥その他――の6つの項目別に、それぞれ確認すべき事項を列挙し、チェックシート形式にまとめている。例えば「理念」の項目では、営業や各窓口の対応が丁寧で早い、従業員の入れ替わりがあまりない、高齢者や身障者を積極的に雇用している、5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）が行

われている、と具体的に記述している。

それぞれの内容については、価格以外に顧客に見てもらいたい点や、顧客から指摘された点などを基にグループ内で議論し、選定した。副グループ長を務める三好創塔玉ヤマゼン取締役営業部長は「現場の生の声が盛り込まれている」とその内容に胸を張る。同グループでは、多くの処理業者や排出事業者がこの基準を活用してもらおうと、希望者にデータを提供す

ることにしている。

委託先選定基準の策定は、17日に都内で開催された同OB会地域別ワークショップ活動成果発表会（写真）で公表された。同OB会は、7期目となる産業廃棄物処理業経営塾（塾長・田中勝馬取環境大学教授）の卒業生で組織され、地域プロジェクトごとにワークショップ活動を行っている。発表会では、委託先選定基準のほか、優良性評価制度のインセンティブや廃棄物の種類の判断などに関する発表も行われた。なお、委託先選定基準のデータ提供希望者は三好氏（048・5882・5503）まで。